

第7回 これからの学術情報システム構築検討委員会 議事要旨

1. 日時：平成26年6月26日（木）13：00～15：30

2. 場所：学術総合センター 20階講義室1

3. 出席者：

（委員）

佐藤 義則	東北学院大学 文学部 教授（委員長）
加藤 さつき	東京外国語大学 学術情報課 課長補佐
飯塚 亜子	東京大学 工学系・情報理工学系等 情報図書課 情報資料チーム 係長
和佐田 岳男	名古屋市立大学総合情報センター 学術担当主査
関 秀行	慶應義塾大学メディアセンター本部 課長
荘司 雅之	早稲田大学図書館 事務副部長兼総務課長
菊池 亮一	明治大学 学術・社会連携部 図書館総務事務長
呑海 沙織	筑波大学 図書館情報メディア系 准教授
大向 一輝	国立情報学研究所 コンテンツ科学系 准教授／学術基盤推進部 学術コンテンツ課 コンテンツシステム開発室長・図書室長
相原 雪乃	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課長
高橋 菜奈子	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 副課長

（陪席）

尾城 孝一	国立情報学研究所 学術基盤推進部 次長
-------	---------------------

（事務局）

吉田 幸苗	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 図書館 連携チーム係長（NACSIS-CAT/ILL 担当）
古橋 英枝	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 図書館 連携チーム係員（NACSIS-CAT/ILL 担当）

（欠席）

小山 憲司	日本大学 文理学部 教授
-------	--------------

<配付資料>

委員名簿

1. 第6回これからの学術情報システム構築検討委員会議事要旨（案）
2. 総合目録データベースのデータ公開方法について
- 3-1. 電子リソースデータ共有WGの設置について（案）
- 3-2. 電子リソース管理データベース（ERDB）プロジェクトのまとめ
4. 目録の将来検討WGの設置について（案）
- 5-1. これからの学術情報システム構築検討委員会規程改訂案
- 5-2. これからの学術情報システム構築検討委員会規程新旧対照表

- 6-1. これからの学術情報システム構築検討委員会 Web サイト開設 (案)
- 6-2. 連携・協力推進会議・機関リポジトリ推進委員会 Web サイト

<参考資料>

1. 総合目録データベースのデータ公開方針
2. パブリックコメントに関する委員会の見解
3. Creative Commons License Deed (表示 4.0 国際)
4. 大学図書館からの要望 (抜粋)
5. これからの学術情報システム構築検討委員会規程
6. 「これからの学術情報システム構築検討委員会」課題整理【まとめ】
7. 平成 25 年度これからの学術情報システム構築検討委員会活動報告
8. 提言 我が国の学術情報基盤の在り方について－SINET の持続的整備に向けて－ (日本学術会議)

4. 議事：

(1) 前回議事要旨 (案) 確認

佐藤委員長から資料 1 に基づき前回議事要旨 (案) について確認があり、原案どおり承認された。

(2) 総合目録データベースのデータ公開方法について

大向委員から資料 2 に基づき、総合目録データベース (NACSIS-CAT) のデータのオープン化の方法に関して、公開条件の変更とデータセット案について提案があった。

○公開条件の変更

大向委員より提案理由について、Creative Commons 4.0 の対象にデータベースに対する権利が含まれており、国際的互換性の点からも適用が望ましいと考えている旨、補足説明があり、提案の通り了承された。

○データセット案

① 図書書誌・雑誌書誌

案 3 「平成 24 年以前に作成された日本語の書誌」の公開が承認された。

➤ 質疑・意見交換

- ・ 研究目的等で全データの要求があれば取得可能なルートが確保されるのか。
→確保される。
- ・ 国際貢献という観点を考慮すると「日本語」よりも「日本の出版社」という条件の方がよいのではないか。
→「日本の出版社」はデータベース上抽出可能な条件ではない。
- ・ 抽出条件を設けるのは全データだとシステム的な負荷が問題になるからか。
→一度公開したものを後から絞ることは難しい、という意味で最初は絞りたい。
- ・ NDL はデータ公開を考えていないのか。日本の独自性をアピールする戦略で

あれば重複する可能性がある。大量データの公開によるインパクト戦略なのであれば案1のような抽出条件の方がよいのではないか。

- ・ API の提供もデータセットの公開と条件設定を揃える必要があるか。
→ライセンスについては同等とするが、データセットと違い網羅的なデータ収集はできない方針にしているため、細かい条件設定はしない。
 - ・ データセットの利用対象がはっきりしないと戦略も考えづらい。
→公開後に要望や新たな議論が生まれることが望ましいと考えている。
- ② 著者名典拠
生没年を除く全データの公開が承認された。
- 質疑・意見交換
- ・ 著者名典拠は国際的にも生没年がない状態で公開されているのか。生没年のない著者名典拠情報に利用価値はあるのか。
→VIAF への参加等で名寄せのために元データの提供が必要であれば、合意書を交わした上で提供することはありうる。
→国内では CiNii Books の API 提供検討時に、生没年については公開を望まない著者や記述の誤りへの対応コストを考慮して除外した方針を踏襲する。

③ 参加館情報

意見交換の結果、連絡先を除く全データを公開することになった。

- 質疑・意見交換
- ・ CiNii Books と同等と考えると連絡先も公開されることになるがよいのか。
→最新ではない連絡先の利用に対する懸念であればステータスも同様であり、実質的に提供できるのは FA 番号と名称程度に簡略化される。
 - ・ 今回の結論としては連絡先を除く、ということによりよいのか。
→連絡先を除く全データとする。

(3) 電子リソースデータ共有 WG の設置について

事務局から資料 No.3-1,3-2 に沿って説明・提案があり、WG 設置について承認された。

- 補足
- 大向委員から ERDB の概要とこれまでの活動経緯について補足説明があり、WG には日本が独自で形成しなければならない国内 OA のナレッジベースである ERDB-JP について、運用案の作成と提案を依頼したい旨、確認があった。
- 質疑・意見交換
- ・ WG の成果物は国内 OA に限った視点で評価すればよいのか。ERDB 全体の運用検討ではないのか。
→ミッションを明確にするため、国内 OA に絞っていただきたい。

(4) 目録の将来検討 WG の設置について

高橋委員から資料 No.4 に沿って説明・提案があり、WG 設置について承認された。

- 補足
- 主査は加藤委員に決定した。
- WG メンバーの選出はシステム面・目録実務面両方から議論が可能な人材を各委員か

ら推薦いただきたい旨、高橋委員より依頼があった。

陪席の尾城学術基盤推進部次長（国立情報学研究所）から WG に対して実践的な変化を伴う議論・報告になるよう、要望があった。

（５）これからの学術情報システム構築検討委員会規程の改訂について

佐藤委員長から資料 No.5-1,5-2 に沿って任期変更の説明があり、改訂案を次の連携・協力推進会議に諮ることが承認された。

（６）これからの学術情報システム構築検討委員会 Web サイトの開設について

事務局から資料 No.6-1,6-2 に沿って説明があり、案の通り承認された。

実際のサイト公開に際しては事務局が案を作成次第各委員に連絡し、承認後に公開されることとなった。また、今後の更新等運用は事務局が担当することで了解された。

（７）その他

相原委員から参考資料 No.8 の説明があった。

以上